音楽部会

県研究主題 楽しい音楽活動を通して、音楽を愛好する心情や感性、音楽的な能力の基礎を育成する学習指導と評価の工夫・改善

提案１　　提案者　末永　圭子（横浜地区）

＜研究主題＞ 「指導と評価の一体化を図る授業実践」～音楽科における具体的な評価場面の実践～

１　提案内容

リコーダー入門期（３年）から、音色を意識させ、主体的に取り組む音楽活動の実践。輪奏の音の重なりを取り上げ、響きを聴きながら演奏し、美しい音を感じ取ることをねらいとした。

（１）子どもの実態から考える教材選択

中心教材曲「森のささやき」の特徴

・既習のソラシドレの音を使って輪奏を楽しむことができる。
・前半と後半のフレーズの特徴の違いを子どもたちが捉えやすい。
・レガート、スタッカートの表現を自然に取り入れたくなる。

①　音色、音の重なりを感じられる教材選び

「『大きな一人』の音に、みんなでなろう。」を合言葉に、どんな音色で演奏したらよいか子供たちが共有し、めざしていける教材。

→表現の工夫ができ、音の重なりの学習の第一歩となる輪奏での演奏ができる。

②　年間学習計画の中での位置づけ

４月から少しずつ積み重ねてきた学習を夏休み前にまとめる。また、10月「レッツゴーソーレ」で音の重なりの学習を再度高め、２月の合奏へとつなげていく。さらに、４・５年次でのアンサンブルの基礎となる教材。

（２）思考判断し、それらを共有しながら表現するための手立ての工夫

①音楽的な言葉の共有

はっきりとどう表したいかという思いを持たせる。気づきを次の活動に活かせるように、言葉を教師が紡いでいく。

・ブレスの場所を確かめて、なめらかに演奏しよう。
　→範奏を聞いてから練習。教師と交互奏。
・タンギングの仕方を確認して、スタッカートで小鳥の声を表現しよう。
　スタッカートを使わない時と使った時の範奏を聞かせ気づかせる。
　→タンギングの舌の動きの状態を、ぬいぐるみを使って確認。

②音楽の可視化　～輪奏の仕組みについての気づき～

・範奏を聴く→言語化→楽譜で確認
・子どもたちの気づきを、言葉で楽譜に記入しまとめる。輪奏に対する気付きを２段の楽譜で視覚的に捉えさせる。「耳からの気づき」を視覚でも理解できるようにした。

③子どもの発言のコーディネート　～音の重なりの特徴をつかむ～

・音と発言と楽譜を結びつける→「音の高さが違うけどリズムがいっしょ。」

（３）「音楽表現の創意工夫」の具体的な評価場面

・シとレでそろっていて違う音がきこえました。→３度の音が重なったときの感覚を具体的に表現しているので、第２観点における評価は充分満足。
・みんなでふくときれいな音になる→具体的な音と音の重なりに思いは至らなくてもみんなで重ねるよさを感じているのでおおむね満足。

（４）成果と課題

・子供なりの気づきを楽譜に系統立てて並べ明確にし、共有化していくことが、次のステップアップへとつながった。音からの気づきを視覚的に言葉で確認することは大切。
・みんなとテンポが合ったと喜びは感じているものの、２声の美しさや特徴を感じることはまだ難しかった。今後、音の重なりをおさえる際には、演奏の在り方、響きの美しさを感じさせる手立てが必要。

２　協議内容

●３年生にリコーダーを楽しませる手立て

・教材の工夫・拡大譜・人形・シールなど細かい手立てが参考になった。
・鍵盤ハーモニカのときからタンギングをしっかりと扱うことによって、リコーダーへの移行がスムーズに行える。
・あまりにも音の出し方だけを徹底して追求していくと、あきて嫌になってしまうこともあるので、いろいろな要素を取り入れている。
・個人差が大きいので、嫌いにさせないで、その時のその子に合わせた支援が大切。

●［共通事項］の言葉の指導

・教師が子供たちに伝えたいことをきちんと言葉で持っているので、子供たちに授業の中で伝わっている。
・子供の中から言葉が出てきた時に、子供のわかりやすい言葉に訳しながら確認している。
・今まで使ってきた言葉を使いながら新しい言葉を伝えていったところがよい。

３　助言

①　主題学習について

横浜市では「主題学習」を取り入れ、9年間を見通して系統的に音楽の授業を進めている。
今回の授業は「曲に合った美しい音色で演奏しよう」の主題の入口。何どもくりかえすことで深まっていく。

②　授業のユニバーサルデザイン化

全ての子供がわかりやすい授業。困り感のある子供達がわかる授業が全ての子にわかりやすい授業につながる。環境の工夫。ルールや手順の明確化。視覚的支援の工夫。発問や説明の工夫。

③　評価の工夫

発表からの見取り、学習カードからの見取りが、子どもたちの満足感を与え、次の授業につながる。主題に対してどこまで達成できたかを見取り、次の学習につなげていくとよい。

④　共通事項について

共通事項がそれぞれの活動の支えとなる。少しずつ掲示などして積み重ねていくとよい。

提案２　　提案者　黒﨑　智美　　川田　味穂（中地区）

＜研究主題＞　音楽を楽しむ活動を通して「できた！」「わかった！」と思える音楽づくりの授業を目指して

１　提案内容

児童に音楽を楽しむ活動を通して音楽に興味関心を持たせ、音楽を愛好する気持ちを大切に育みながら、能力を伸ばしていけるような「音楽づくり」の授業のあり方についての提案。

（１）１年生の実践

①題　材　名「音のスケッチ」

②題材の目標　短い音をつくったり、仕組みを生かしたりして、音を音楽にしていくことを楽しみながら、思いをもって簡単な音楽をつくる。

③教　　材「きらきらぼし」「ポンポンポップコーン」「まねっこうた」「こぶたぬきつねこ」

④授業の実際

（第１次）音を音楽にしていくことを楽しみながら、思いをもって簡単な音楽をつくる。
「きらきらぼし」のイメージを生かし、教科書のワークシートを使って、星のイメージの短い旋律をつくり、鍵盤ハーモニカで演奏する。（２時間扱い）

（第２次）短い旋律を作ったり、仕組みを生かしたりして、音を音楽にしていくことを楽しみながら、思いを持って簡単な音楽をつくる。（３時間扱い）
「こぶたぬきつねこ」を歌い、繰り返しの楽しさを味わい、それを生かして「まねっこうた」の旋律をつくる。

（２）４年生の実践

①題　材　名「音のスケッチ」

②題材の目標　短い音型を組み合わせたり、音楽を形づくっている要素を工夫したりしながら、イメージしたことを音楽にして表現する。

③教　　材　「ゆかいに歩けば」（参考曲「トルコ行進曲」「ラデッキ―行進曲」「モルダウ」「白鳥」「子守唄」「夜想曲」）

④授業の実際

（第１次）歌唱曲や鑑賞曲を聴き、場面の移り変わりをイメージする。（２時間扱い）
第１時　「ゆかいに歩けば」の曲の気分を感じ取り、それをもとに音楽をつくる。
第２時　各場面と共通するテーマの曲を鑑賞する。

（第２次）場面に合わせて音楽づくりをする。
第３・４時　いろいろな楽器に触れ、音のイメージをつかむ。
音楽づくりの基盤となる音楽の要素や仕組みを確認する。
第５時　考えた旋律やリズムを反復・問いと答え・変化などの音楽の仕組みをヒントに組み立てて、自分たちの場面の音楽をつくる。
第６時　グループで、つくった音楽を発表する。

（３）成果と課題

①成果

○体を使ってたくさん音楽遊びやリズム遊びをすることで、音楽の素地となる、フレーズ感や拍の感覚が養われ、抵抗なく音楽活動することができるようになった。

○低学年からの積み重ねで培われるものや「共通事項」を大切である。自分の言葉で

表現することによって音楽作りがスムーズになり、価値ある活動へとつながる。

○低学年では、個人・ペアでの活動を効果的に活用し、満足感や達成感を感じさせながら基礎的な力を育てていくことが大切である。

○教科書への書き込み（１年生）、ワークシート（４年生）は、児童の実態に応じて見直しながら活用した。思考の過程を確認するための手立てとなり、次の活動へつなげるのに有効であった。

②課題

○グループの作り方への配慮、自分達が出した音を聴き取れる場所の確保も必要。

○子どもの活動を支援しながら、それぞれの頑張りや成長を見取る評価の方法は、今後検討していく必要がある。

２　協議内容

○教室や音楽室に共通事項の要素が掲示してあり、子どもたちの言葉を音楽の言葉（共通事項）に変換することを低学年から積み重ねているのがよい。

○休み時間に自主的に練習を希望し、音楽室にくる子どもたちが増えた。しかし、練習する場所や時間の確保は、課題があった。

○見通しを持った学習計画や個への支援があり、子ども達も楽しんで学習に取り組めたと思う。

○共通事項をあまりに意識しすぎると、子どもたちの思いや意図より、「共通事項を使ってさえいれば良い」となってしまう可能性がある。今回は、活動が止まってしまっている時に、子ども達が自ら求める音や表現を聴き、導き出すために共通事項を活用した。

３　助言

○「音楽づくり」は思考・判断・表現力に直結した学習活動である。音楽のよさを感じ取り、感性をふくらませるところから始まる。１年生では手遊びをたくさん取り入れ、楽しさを感じてから音づくりに入ったのがよかった。４年生では題材選びを工夫し、「ゆかいに歩けば」で軽快な気分を味わわせ、更に歌詞の気分を感じ取り、表現につなげるためにそれに合った鑑賞曲を聴いて音作りに入った点がよかった。子ども達が思考・判断し、表現している授業だった。

○共通事項については、各領域の支えになるものなので、いつも大事に扱うとよい。１年生から少しずつ積み重ねていくことによって、自然に身につき、基礎・技能の習得につながる。

○４年生のワークシートについては、時間毎の目標を明確にし、毎時間ワークシートを作り変えていったことで、その日の授業目標をタイムリーに提示することができた。子ども達の表現や活動を的確に評価することができた。

４　まとめ

○掲示物の工夫などにより、子どもたちの共通事項を使いながら表現や活動を振り返ることができる。それが、子どもたちの思考力を育んでいると考える。

○日常的に遊び歌など、音楽活動の素地になる活動に取り組んでいくことが大切である。

○「音楽づくり」は、みんなで一つの音楽を作り上げることが醍醐味。プロセスを大事にしたい。「音楽づくり」に取り組むと、友だちの表現に興味を持ち、鑑賞の能力の育成につながる。